

令和8年度 第3回 豊田市保見地域会議 会議録

開催日時	令和8年6月24日（水）	開会	閉会
		午後6時55分	午後7時50分
会 場	保見交流館1階 多目的ホール		
出席者	地域会議委員：15人		
	会長：杉野 秋吉 副会長：楓原 和子		
	委員：荒川 真司、加藤 康夫、加納 誠、上瀬 靖彦、神谷 浩一、 近藤イゴルアキヒト、篠田 岳司、鈴木 照男、藤井 玲子、 藤原 美里、宮川 安弘、八木 宝、山崎 健司		
欠席者	0名		
傍聴者	なし		
事務局	猿投支所：小澤支所長、天野副支所長、児玉主査監、宮石担当長		
	1 豊田市民の誓い 2 会長あいさつ 3 新たな提言に向けた取組について 4 令和8年度の地域課題解決事業について 5 その他		

■ 議事（要約）

2 会長あいさつ

今後課題解決の話し合いになるが、解決策の実施の際には自治区の区長さんたちの協力が必要となる。各委員がそれぞれの自治区に持ち帰って地域会議の情報を周知していただきたい。

3 新たな提言に向けた取組について

資料1頁から2頁までを事務局から説明

【全体協議：課題に対する意見交換】

委員：（防災意識の向上）愛工大の中には地域防災研究センターがあり、防災対策の町医者としての機能もあるという。大学と連携して防災意識を向上してはどうか。

委員：（自治区要望）①八草から大畑小学校への通学路の路面がデコボコで転倒の恐れがある。②国道沿いの草木が伸びて見通しが悪く、事故を起こす危険。③小学校の温度計が壊れている。

委員：（不法投棄対応・交通・環境整備）環境美化の際に地元を回ってみた際に大きなガラスなど捨てられていた。防犯カメラもあるが、防犯カメラのないところに冷蔵庫が捨てられていた。カメラの増設が必要。

朝夕の渋滞がひどくなってきている。トヨタの貞宝工場ができるとより激しくなる。また、通学路にイノシシが出ている。

その他、消防団員のなり手がいないと聞く。地域の担い手の確保も課題。休耕地が多く、草が伸び放題になっている。地域バスの利用者が少ない。バス停から家までの移動が困難と聞く。

委員：（コミュニティ形成）地域の好きなところ、良い所を延ばすことも視点としてあると思う。自分が思う良いところを挙げると、自然が多いこと、各自治区での住民がアットホーム的なところがあること。

地域の運動会でソフトボール大会や、ボッチャ、マレットゴルフ、囲碁やマージャンなど各自治区の対抗戦を行ったりして、地域の住民の活動意識を高めると地域のアットホームな雰囲気が向上し、地域の課題解決につながるのでは。

また、各自治区の区有地の有効活用により、農園体験や地域が必要とする店舗の誘致も、地元にある中京大学や愛工大のコラボ、さらには猿投アドベンチャーフィールドなどの企業とのコラボも、地域住民の交流を促進して地域課題の解決につながると思う。

委員：（高齢者・交通・防犯など）高齢者クラブの役員のなり手がいない。高齢者クラブの市高連からの脱退も相次いでいる。地域の担い手も減少している。自転車の交通ルールの徹底も必要。ヘルメット着用や左側走行など、子どもも大人にも周知が必要。また、高齢者のための安全運転のための講習や、免許返納への「気づき」を促す機会など対策してはどうか。

そのほか、防犯カメラの設置等防犯対策。グリーンロードを走る暴走族の取り締まりなども必要。イノシシ、クマ対策通報については、確実な情報収集の方法の検討も必要。通学路の安全確保やゴミステーションの利用ルールの徹底も課題。

委員：（ゴミ問題・環境整備）保見団地では、多国籍の外国人が多く、ゴミ出しの分別ができなくて困っている。防犯カメラで監視して、指導をしているが追いつかない。夜に捨てに来るので、センサーライトを設置しても効果が薄い。県営だけでなく他の地区からも捨てに来ている。

市の清掃の協力による粗大ごみの無料回収も10年以上にわたり実施してくれていたが、最近では、改善しないならやめると言われている。住民だけでなく業者のゴミも捨ててあり、自治区では手に負えない。

そのほか、夜間の街灯の設置や災害対策も課題に思う。また、高齢者の孤独死もある。団地では人が多すぎて助けられない。

委員：（交通安全）歩道を走る自転車への安全対策が必要と思う。通勤通学の際に自転車で歩道を走る人がいる。自転車は車道を走るのが危険な場合、歩道を走ることもあるが、歩行者優先のルールはあまり意識されていない。歩道への看板設置や勤務先の職場研修で周知を図ってはどうか。

委員：（健康促進）現在の地域課題解決事業に沿って、子どもたちから運動習慣をつける活動をしている。子どもたちからの運動習慣のフォローをして、体力をつけていくことを継続するべきと考えている。運動の習慣化、効果の確認が必

要。小学生だけでなく中学生につながる活動など、中京大学等の協力を得て、体力向上のモデル地区になる取り組みをしてはどうか。

委員：（防災）南海トラフ等広域災害への防災意識が低いと感じる。高齢化率が高い自治区もあり、避難等の誘導も課題。避難場所や避難経路の確認、自分自身の備えも必要。地区の防災マニュアルの勉強会や避難所運営の訓練などを実施してはどうか。マニュアルや地図の改定も。また地区住民一人当たり千円の防災対策費用を徴収し、必要な防災用品の購入に充ててはどうか。

委員：（福祉）小さな困りごとを助けるプロジェクトを提案する。交通の不便な場所を対象に、免許を返納した高齢者をグループ化して送迎、小さな家具の移動や電球の交換などの軽作業の手伝いを各自治区で行うなど。

また、ゼロ円マーケットの開催も提案する。年に2回程度、交流館の一角で不用品の譲渡会として開催。必要な人に物品がわたり、ゴミ減量のメリットもある。

委員：（交通）トヨタ自動車の貞宝工場が稼働されると、交通量の増加が見込まれる。令和7年度の保見地区の交通事故発生件数は53件、大畑では死亡事故もあった。通学路の安全対策は必要。東保見町の自治会での話し合いでも、横断歩道への信号の設置、生活道路の通学通園時に起きる渋滞対策や通勤時（通過交通）のスピード抑制交通安全対策の要望があった。

委員：（高齢者・コミュニティ）高齢者の免許返納後の買い物対策が必要。自動車を手放した後の対策が課題。

地域社会とのつながりを小さいうちから高められないか。定年後も70才まで働き、若い人も共働きの時代。住民と地域とのつながりが薄い。青年会や婦人会もなくなり、高齢者クラブも解散傾向、子ども会も自由参加となっている。若い人たちと自治区のつながりを作らないと、寂しい社会になる。

委員：（高齢者）高齢化による買い物弱者救済のため、移動スーパーマーケットや配達サービスが必要ではないか。高齢化率も高まっている。

委員：（高齢者・生活環境）高齢化率が高まっている。独居世帯も多くなってきている。空き家も年々増加傾向にあり、外国人の入居も増えている。空き家の庭木が支障木化している、また民家の裏山の樹木も支障木化が問題になっている。

民生委員の担い手不足により、高齢者の見守りもできていない。いざという時の助け合いに不安がある。良い仕組みを作って活気あるまちづくりにつなげられないか。

委員：（コミュニティ）1つ目の課題として、地域と学校との関係性を挙げる。コロナ以降、地域と幼稚園との関わりがまったくなくなった。幼稚園に騒音の苦情など出ないか懸念している。また東保見小学校の校区に猿投地区が入るため、中学校で別れる子どももいる。地域と学校との関わりが想像つかない。2つ目は、世代間交流が希薄化していること。世代間のマッチングによる地域での事業ができないだろうか。3つ目は、日本語を理解できない住民が増加していること。住民

間のコミュニケーションを図るため、行政ができること、住民ができることを考えたい。4つ目として、独居老人の増加。孤立させない方法を考えたい

回答シートは事務局に提出

次回事務局が意見をまとめて報告予定

4 令和8年度の地域課題解決事業について

当日配布資料：「ほみっこ交流会」のチラシ説明

委員は事前予約なしで可能なので、参加・見学を依頼

5 その他

【情報共有】

- ・委員：保見団地のゴミ問題について、地域外から業者が捨てに来るのは、何か理由があるのか？捨てられてしまう環境があるのか。

⇒委員：団地内の駐車場へ道路から捨てられる。夜中に捨てに来る。ゴミ問題は40年前から続いている。最近は自治区が集めた金属ごみを業者が盗んでいく事案や、廃タイヤが180本もあったこともある。自治区での対応は限界。

【事務連絡】

- ・次回の予定

日 時：令和8年7月22日（水）午後7時から

場 所：保見交流館1階多目的ホール